千葉県八千代市

白幡前遺跡　ｉ地点

－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

令和４年度

株式会社Ａｓｓｕｒｅ Ｄｒｅａｍ

八千代市教育委員会

凡　例

1．本書は，八千代市教育委員会が令和３年度及び令和４年度民間開発等埋蔵文化財発掘調査事業として実施した発掘調査の報告書である。報告書作成作業は令和４年度事業として行った。

2．本書に収録した発掘調査は，宅地造成に伴うもので，事業者である株式会社Assure Dreamの委託を受けて実施した。

3．遺跡名は，白幡前遺跡，所在地は千葉県八千代市萱田字池ノ台2243番２他である。

4．調査及び整理は，第１次本調査を森竜哉が，それ以外の調査及び整理を宮下聡史が担当した。

確認調査	期間　令和３年５月24日～令和３年６月３日	面積	149.9㎡/1,663.57㎡
第１次本調査	期間　令和３年９月１日～令和３年10月28日	面積	320㎡
第２次本調査	期間　令和４年５月27日～令和４年７月29日	面積	296.32㎡
本整理	期間　令和４年８月１日～令和５年３月31日		

5．遺構No.は，数字と記号（アルファベット）の組み合わせで標記した。記号は以下のとおりである。
　竪穴建物跡　D　　土坑　P　　溝跡　M　　かく乱　K

6．遺構・遺物の縮尺は，原則として下記のとおりである。
　［遺構］竪穴建物跡・溝跡1/60　土坑1/30　　［遺物］土器1/3　拓本1/2

7．遺物実測図中の断面黒塗りは須恵器を表し，中軸線の両脇の空きは，復元実測を表す。

8．参考文献は第３章末にある。

9．出土した遺物のほか，写真・図版等の調査資料は，八千代市教育委員会が保管している。

10．本書の図版作成，遺物の撮影，執筆・編集を，宮下が行い，遺構・遺物のトレースを伊藤衣莉加，大友梢が行った。

八千代市の位置

白幡前遺跡の位置
（国土地理院発行５万分の１地形図に加筆・編集）

目　次

凡例
目次
挿図目次
写真図版目次
第１章　調査経過及び概要
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の概要……1
　第３節　白幡前遺跡の概要……2
第２章　検出された遺構と遺物
　第１節　縄文時代……5
　第２節　弥生時代……8
　第３節　奈良・平安時代……8
　第４節　中・近世……12
　第５節　遺構外出土遺物……14
第３章　成果と課題……14
写真図版……15
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　白幡前遺跡調査地点……3
第２図　白幡前遺跡周辺の遺跡……3
第３図　白幡前遺跡ⅰ地点遺構配置図……4
第４図　縄文時代遺構（１）……5
第５図　縄文時代遺構（２）……6
第６図　縄文時代遺構（３）・出土遺物……7
第７図　弥生時代遺構・出土遺物……8
第８図　奈良・平安時代遺構（１）……10
第９図　奈良・平安時代遺構（２）・出土遺物（１）……11
第10図　奈良・平安時代出土遺物（２）……12
第11図　中・近世遺構・出土遺物……13

写真図版目次

図版１　遺構１（調査前全景・Ⅰ区全景・基本層序・０１Ｐ・０１Ｍ～０３Ｍ・０２Ｐ・Ⅱ区全景）…15
図版２　遺構２（０３Ｐ～０９Ｐ）……16
図版３　遺物３（Ⅲ区全景・基本層序・０１Ｄ・０５Ｍ・１１Ｐ・０４Ｍ・１３Ｐ）……17
図版４　遺物４・遺物１（Ⅳ区全景・０５Ｍ・１４Ｐ・１２Ｐ・縄文時代出土遺物）……18
図版５　遺物２（０１Ｄ・０２Ｍ・０５Ｍ・０４Ｍ出土遺物）……19

第１章　調査経過及び概要

第１節　調査に至る経緯

令和３年４月21日付けで，株式会社Assure Dream　代表取締役　濱田孝典（以下，事業者）から萱田字池ノ台2243番２他の宅地造成に係る「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の依頼が提出された。確認地は，白幡前遺跡の範囲内であることから，八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）は，文化財保護法（以下「法」という。）第93条に基づく届出が必要」であることと，「その取扱いについて協議したい」旨をそれぞれ回答し，合計1663.57㎡について協議を行った。その結果，事業者は工事を進めたいとのことであり，同年４月21日付で事業者から法第93条に基づく届出が提出されたことから，市教委は同年５月24日に確認調査を開始した。

確認調査　確認調査は，令和３年度市内遺跡発掘調査事業として国庫及び県費の補助を受けて行った。白幡前遺跡i地点として対象面積1663.57㎡のうち149.9㎡を調査した。その結果，発掘調査により縄文時代の陥穴１基，竪穴建物跡１棟，奈良・平安時代土坑２基，竪穴建物跡５棟を検出した。

本調査　確認調査の結果，634.32㎡について協議範囲とし，本調査実施に向けて協議を重ねた。協議の結果，18㎡を保存協議とし，工期等の都合上，共同住宅建設部分及び，敷地への進入路部分を第１次調査として令和３年度中に，残りを第２次調査として令和４年度事業とすることとした。市教委は令和３年６月21日付で調査の見積りを事業者に提示し，事業者からも同年７月30日付で八千代市長（以下「市」という。）に調査依頼書が提出された。市は同年８月12日付でこれを受託した。令和３年８月20日付で市と事業者間で第１次本調査の委託契約を締結した。同年９月１日に市教委が本調査を開始した。第２次調査及び整理は令和４年５月６日に委託契約を締結し，同年５月27日に本調査を開始した。

第２節　調査の概要

第１次本調査　協議範囲の内，共同住宅建設予定地及び進入路部分320㎡について調査を行った。表土の掘削，埋め戻しは重機を使用し，適宜写真撮影と図面作成，トータルステーションによって記録をとりながら完掘を目指した。調査区内は深いところで２ｍ程の埋土があり，土置き場確保のため，調査区南側の進入路部分（Ⅰ区）を先に調査した後埋戻し，北側の共同住宅部分（Ⅱ区）の調査を行った。

調査経過は，９月１日機材搬入，環境整備，調査前状況写真撮影。９月６日から７日にかけて進入路部分の表土掘削。遺構確定後９月８日より竪穴建物跡等の遺構調査に移行した。トータルステーションによる遺物取り上げ及び平面図作成等を並行して行い，随時写真撮影等により記録を行った。10月５日に進入路部分の埋戻しを行い翌６日から７日に北側の共同住宅建設予定地部分の表土掘削を行った。前半同様に調査を行い，10月28日に埋戻し，機材を撤収し，調査を終了した。

第２次本調査　協議範囲の内，296.32㎡について調査を行った。調査方法については第１次同様で，土置き場確保のため調査区を東西に２分割し調査を行った。表土の掘削，埋め戻しは重機を使用した。

調査経過は，５月23日より機材搬入，環境整備，調査前状況写真撮影等の準備を行い，５月27日から31日にかけて調査区西側（Ⅲ区）の表土掘削を行った。遺構確定後６月６日より竪穴建物跡等の遺構調査に移行した。トータルステーションによる遺物取り上げ及び平面図作成等を並行して行い，随時写真撮影等により記録を行った。６月30日に調査区西側の埋戻しを行い，７月４日から５日にかけて調査区東側（Ⅳ区）の表土掘削を行った。遺構確定後７月７日より土坑等の遺構調査に移行し，前半同様随時記録を取りながら調査を行った。７月25日に埋戻しを行い，29日に撤収を完了した。

第３節　白幡前遺跡の概要

遺跡の立地　白幡前遺跡は，市域の中央，ゆりのき台及び萱田地区にある。南北を新川から延びる２本の谷津に挟まれた標高12mから24mの台地及び河岸段丘上に位置する。調査地点は遺跡の南西端に位置し，谷津を南に臨む台地上緩斜面，標高20m前後に立地する。

これまでの調査　萱田地区の遺跡については，昭和50（1975）年11月～12月に萱田地区特定土地区画整理事業（現ゆりのき台）の一環として事前準備の分布調査が財団法人千葉県文化財センター（現公益財団法人千葉県教育振興財団）によって実施され，遺跡分布状況が確認された。昭和54（1979）年には現在のゆりのき台の一帯が萱田遺跡として認識された。昭和58（1983）年の八千代市教育委員会（以下市教委）による埋蔵文化財包蔵地所在調査報告の時には，萱田遺跡は分割されており，現在の白幡前遺跡の内，権現道より西側を白幡前遺跡，東側を上の台遺跡と呼称していた。

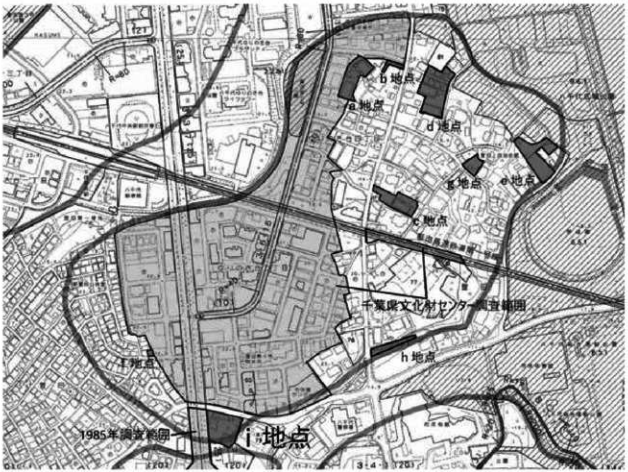
これらと前後して，昭和54年８月から昭和63（1988）年９月にかけて，萱田地区特定土地区画整理事業の実施に伴い，白幡前遺跡の内94,026㎡が㈶千葉県文化財センターにより調査が行われた。その結果，縄文時代を除く旧石器時代～平安時代の遺構・遺物が多数検出され，特に奈良・平安時代は竪穴建物跡279軒，掘立柱建物跡150棟，瓦塔などの仏教関連の遺物や多数の墨書土器など豊富な成果であった。この内，人面と「丈部人足召□」と書かれた墨書土器は八千代市指定文化財となっている。

上の台遺跡では，平成２（1990）年12月～翌年８月に東葉高速鉄道の建設に伴い1,935㎡が㈶千葉県文化財センターにより調査され，奈良・平安時代の竪穴建物跡17軒などが検出された。

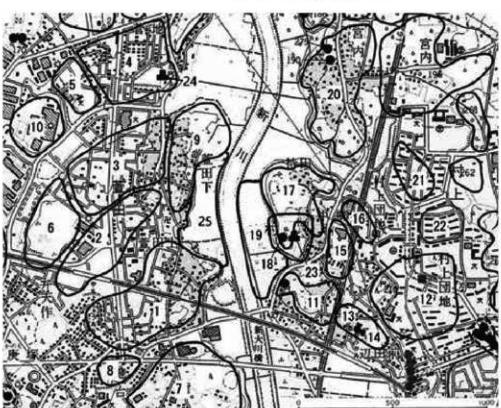
平成９（1997）年に埋蔵文化財分布地図の改訂に伴い上の台遺跡は白幡前遺跡に統合された。

その後市教委による調査として平成13（2001）年に遺跡北部でａ地点1,498㎡，ｂ地点214㎡が調査され，奈良・平安時代の竪穴建物跡19軒，掘立柱建物跡６棟などが検出された。平成20（2008）年には遺跡中央部でｃ地点311㎡が調査され，奈良・平安時代の竪穴建物跡４軒，溝跡１条などが検出された。平成25(2012)年には遺跡北部でｄ地点が調査され，縄文時代の竪穴建物跡２軒，奈良・平安時代の竪穴建物跡５軒・溝跡１条などが確認された。平成26（2013）年，遺跡東部の新川低位段丘面上でｅ地点の調査が行われ，中近世の掘立柱建物跡１棟や台地整形区画１基，溝跡12条のほか多数のピットなどが検出されている。平成31年（2019）に遺跡中央南端部の崖際でｈ地点の調査が行われ，縄文時代の竪穴建物跡１棟と，古墳時代の竪穴建物跡２棟，奈良・平安時代の溝や中近世の土坑，道状遺構が検出されている。また，昭和60(1985)年に池の台遺跡として，現在の白幡前遺跡と池の台遺跡にまたがり，今回の調査区西側の都市計画道路の建設に伴い調査が行われ，白幡前遺跡側では奈良・平安時代の竪穴建物跡２棟と溝跡１条が確認されている。

周辺の遺跡　前述した萱田地区特定土地区画整理事業において，現在のゆりのき台の範囲にかかる白幡前遺跡・井戸向遺跡・北海道遺跡・権現後遺跡・坊山遺跡・ヲサル山遺跡の６遺跡が大規模に調査され，旧石器時代～中世に至る遺構・遺物が多数確認されている。本遺跡の南には弥生時代後期～古墳時代中期を主体とする川崎山遺跡や池の台遺跡があり，新川の対岸にある村上地区には，奈良・平安時代の集落跡として知られる村上込の内遺跡を始め，浅間内遺跡，殿内遺跡など，奈良・平安時代を中心に各時代の遺構・遺物が多数確認され，これらの遺跡が所在する新川上流および辺田前・沖塚前低地に望む一帯は遺跡の密集地として認識される。

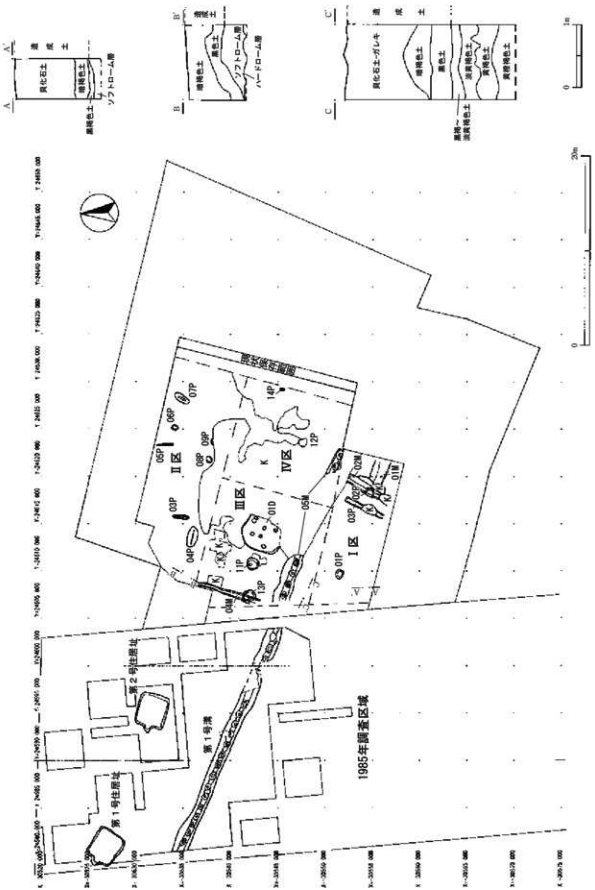


第１図　白幡前遺跡調査地点



1　白幡前遺跡
2　井戸向遺跡
3　北海道遺跡
4　権現後遺跡
5　ヲサル山遺跡
6　坊山遺跡
7　川崎山遺跡
8　池の台遺跡
9　南海道遺跡
10　ヲサル山南遺跡
11　浅間内遺跡
12　村上込の内遺跡
13　白筋遺跡
14　根上神社古墳
15　殿内遺跡
16　境作遺跡
17　持田遺跡
18　正覚院塚
19　浅間下遺跡
20　村上宮内遺跡
21　村上向原遺跡
22　名主山遺跡
23　正覚院館跡
24　飯網砦跡遺跡
25　志津根遺跡

第２図　白幡前遺跡周辺の遺跡


第1号住居址
第2号住居址
第1号溝
1985年調査区域
I区
II区
III区
IV区
01P
02P
03P
04P
06P
07P
08P
09P
12P
14P
01D
03D
04D
05D
01M
02M
03M
K
表土
黒色土
ソフトローム層
ハードローム層
褐色土
黒褐色土
暗褐色土
黒褐色土
黒褐色土
黒

第２章　検出された遺構と遺物

第１節　縄文時代

今回の調査において，縄文時代の陥穴４基を検出した。４基とも遺物の出土は見られなかった。また，Ⅰ区確認面より縄文土器が出土しているため，ここで併せて報告する。

０３Ｐ

位置　調査区北側西寄り　**確認面**　ハードローム層　**長軸方向**　N-5.5°-W　**規模・平面形**　1.7m×0.35m×0.75mの楕円形　**壁**　Ｖ字状に立ち上がる。南側は下部が袋状に広がる。　**床面**　平坦で南側に下がる　**覆土**　５層に分層される。　**所見**　覆土や遺構の形態などから縄文時代の陥穴と考えられる。

０４Ｐ

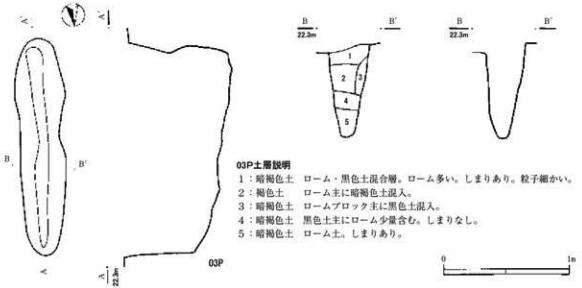
位置　調査区北側西寄り　**確認面**　ハードローム層　**長軸方向**　N-77°-E　**規模・平面形**　2.16m×10.5m×2.0m　**壁**　Ｖ字状に立ち上がる。南側は下部が袋状に膨らむ。　**床面**　南側に下がる。　**覆土**　７層に分類される。　**所見**　覆土や遺構の形態などから縄文時代の陥穴と考えられる。

０５Ｐ

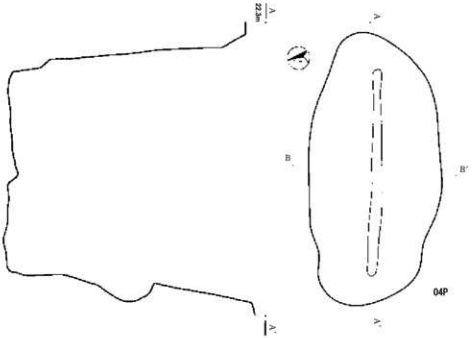
位置　調査区北側東寄り　**確認面**　ハードローム層　**長軸方向**　N-2°-E　**規模・平面形**　1.76m×0.17m×0.18m　**壁**　急角度で立ち上がる。　**床面**　南側に下がる。　**所見**　覆土や遺構の形態などから縄文時代の陥穴と考えられる。

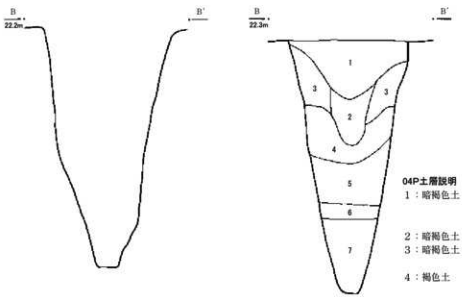
０７Ｐ

位置　調査区北東　**確認面**　ハードローム層　**長軸方向**　N-32°-W　**規模・平面形**　17.3m×0.73m×1.29m　**壁**　急角度で立ち上がる。立ち上がり部分は袋状に広がる。　**床面**　平坦で，南側に下がる。　**覆土**　８層に分類される。　**所見**　覆土や遺構の形態などから縄文時代の陥穴と考えられる。



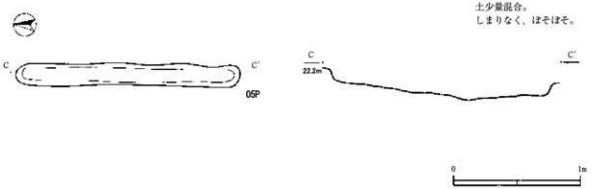
第４図　縄文時代遺構（１）



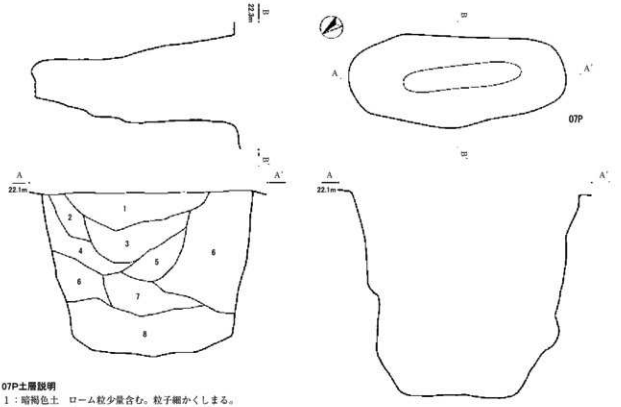


04P土層説明

1：暗褐色土	黒色土・ローム土混合層で，2㎜大のローム粒全体に含む。粒子細かく，しまる。
2：暗褐色土	1層疑似。ローム粒の割合多い。
3：暗褐色土	黒色土・ローム土・ローム粒混合。ややしまり欠く。
4：褐色土	ローム土主に黒色土を少量含む。しまりなく，ぼそぼそ。
5：褐色土	ローム土とローム粒混合。4層疑似。しまりなく，ぼそぼそ。
6：褐色土	ローム土。
7：褐色土	ローム土とロームブロック，黒色土少量混合。しまりなく，ぼそぼそ。



第５図　縄文時代遺構（２）



07P土層説明

1：暗褐色土　ローム粒少量含む。粒子細かくしまる。
2：褐色土　ローム土、ロームブロック。しまる。
3：暗褐色土　1層疑似。黒色土やや多い。粒子細かく、しまる。
4：暗褐色土　ローム粒3mm大含む。ややしまり欠く。
5：暗褐色土　ローム粒に黒色土少量含む。粒子細かく、しまる。
6：褐色土　ローム、黒色土混合。粒子荒く、しまり欠く
7：褐色土　ローム土主体。しまる。
8：褐色土　ローム土に5～7mm大ロームブロック混合。しまり欠く。粒子荒い。

第6図　縄文時代遺構（3）・出土遺物

縄文時代遺物観察表

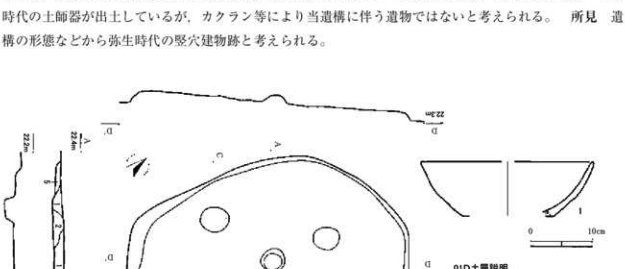
遺構		器種等	部位	計測値（cm）			色　調	胎土等	調整・文様等
				器高	口径	底径			
Ⅰ区確認面	1	深鉢	胴部	—	—	—	暗淡褐色	長石、石英	貝殻充填文
	2	深鉢	胴部	—	—	—	黒褐色	長石、石英	刺突文、縄文
	3	深鉢	胴部	—	—	—	黒褐色	長石、石英	羽状縄文
	4	深鉢	胴部	—	—	—	外面：暗褐色 内面：黒褐色	長石、石英	羽状縄文
	5	深鉢	胴部	—	—	—	暗淡褐色	長石、赤色鉱物	隆帯にキザミ
	6	深鉢	胴部	—	—	—	外面：黒褐色 内面：暗淡褐色	長石	縄文、刺突文

第２節　弥生時代

今回の調査において，弥生時代の竪穴建物跡１棟を検出した。

０１Ｄ

位置　調査区中央西寄り　**確認面**　ハードローム層　**長軸方向**　N-29°-Wで東に振れる。　**規模・平面形**　約4.7m×3.5m以上×0.2mの不整形な俵型。床面に小ピット７基を有する。主柱穴は不明　**壁**　わずかな立ち上がりが残るのみで，形状は不明　**床面**　ハードローム層を掘り込み地床とする。　**覆土**　６層に分類。遺構上部は削平されたと考えられ，覆土は非常に薄い。　**遺物出土状態**　覆土中より奈良・平安時代の土師器が出土しているが，カクラン等により当遺構に伴う遺物ではないと考えられる。　**所見**　遺構の形態などから弥生時代の竪穴建物跡と考えられる。



第７図　弥生時代遺構・出土遺物

０１Ｄ遺物観察表

	器種等	部位	計測値（cm）			色　調	胎　土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	口縁～底部	(7.2)	(13.6)	―	外面：暗橙褐色 内面：黒色	長石，石英，雲母	内外面ともミガキ

第３節　奈良・平安時代

今回の調査において，奈良・平安時代の土坑７基と溝跡４条を検出した。

０１Ｐ

位置　調査区南側西寄り　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　0.95m×0.8m×0.3m　東西にやや長い円形　**壁**　緩やかに立ち上がる　**底面**　ほぼ平坦　**遺物**　なし　**所見**　覆土や形態から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

０２Ｐ

位置　調査区南側東寄り　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　0.95m×0.8m×0.3m　**切り合い**　０２Ｍを切る　**壁**　緩やかに立ち上がる　**底面**　ほぼ平坦　**覆土**　暗褐色～黒褐色土が堆積する。　**遺物**　なし　**所見**　覆土や形態から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

０６Ｐ

位置　調査区北側東寄り　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　0.7m×0.55m×0.15m　ほぼ円形　**壁**　やや角度を取って立ち上がる。　**底面**　ほぼ平坦で，南側がやや深くなる　**覆土**　２層に分類される。　**遺物**　土師器片１点が出土した。　**所見**　覆土や遺構の形態等から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

０８Ｐ

位置　調査区北側中央　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　0.7m×0.6m×0.1m　**壁**　緩やかに立ち上がる　**底面**　ほぼ平坦　**覆土**　黒色土とローム土混じりの土が堆積する。　**遺物**　土師器２点出土　**所見**　覆土や遺構の形態等から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

０９Ｐ

位置　調査区北側東寄り　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　直径0.7m以上，深さ0.12mの円形と考えられる。南側をカクランにより切られる。　**壁**　緩やかに立ち上がる。　**底面**　ほぼ平坦　**遺物**　なし　**所見**　覆土や遺構の形態等から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

１１Ｐ

位置　調査区中央西寄り　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　直径約1.25m×深さ約0.2mの不整形な円形。底面に木の根による小穴あり。　**壁**　ゆるやかに立ち上がる　**底面**　ほぼ平坦　**覆土**　６層に分類される。　**遺物**　なし　**所見**　覆土や遺構の形態等から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

１４Ｐ

位置　調査区中央東　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　0.4m×0.3m×0.3mの不整形な楕円形。　**壁**　比較的急角度で立ち上がる。　**覆土**　４層に分類される。　**遺物**　なし　**所見**　覆土や遺構の形態などから奈良・平安時代の柱穴と考えられる。

０１Ｍ

位置　調査区南東。東西方向に延びる。　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　カクランにより輻不明。底面に浅い溝が掘り込まれる。　**壁**　緩やかに立ち上がる。南側は立ち上がり不明。　**覆土**　５層に分類した。暗褐色から黒褐色土で粒子細かくしまっている。　**遺物出土状態**　覆土中より土師器数点が出土した。　**所見**　覆土や遺構の形態などから奈良・平安時代の溝跡と考えられる。

０２M

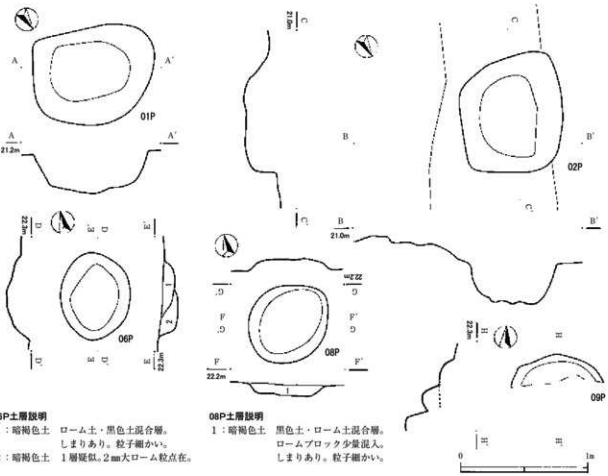
位置　調査区南側東寄り。南北方向に延びる。　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　４m以上×１m×0.2m　**切り合い**　０２Pに切られる。　**壁**　急角度で立ち上がる。東壁は２段の立ち上がりがある。　**遺物出土状態**　覆土中より土師器１点が出土した。　**所見**　遺構の形態などから奈良・平安時代の溝跡と考えられる。

０３M

位置　調査区南側東寄り。南北方向に延びる。　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　4.5m×0.6m×0.16m　北側で立ち上がる。　**壁**　緩やかに立ち上がる。　**遺物出土状態**　遺物なし。　**所見**　遺構の形態などから奈良・平安時代の溝跡と考えられる。

０５M

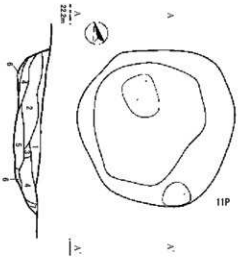
位置　調査区中央南寄り。東西方向に延びる。　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　17m以上×1.7m×0.8mで底面にほぼ0.5m間隔で並ぶ小ピットを有する。東側はカクランが深く，一部しか検出できなかった。　**壁**　Ｖ字状に立ち上がる。　**覆土**　７層に分類した。　**遺物出土状態**　覆土中から縄文土器，弥生土器，奈良・平安時代の土師器・須恵器が見つかっている。　**所見**　検出された位置や遺構の形態等から奈良・平安時代の溝跡と考えられる。位置関係と遺構の形態から調査区西側に隣接する都市計画道路建設に伴い，池の台遺跡として調査された際に検出された第１号溝の延長部分である。

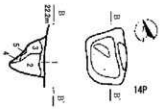


第８図　奈良・平安時代遺構（１）

11P土層説明

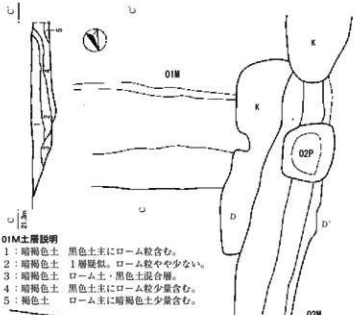
1：暗褐色土
　粘性・しまりあり。
2：黒褐色土
　焼土と少量の炭化物混じる。
　粘性・しまりあり。
3：黒色土
　粘性・しまりあり。
4：淡暗褐色土
　炭化物含む。焼土粒多く含む。
　粘性あり。しまりやや弱い。
5：淡褐色土
　ローム土まじる。
　粘性・しまりあり。
6：褐色土
　ハードローム層。
　粘性・しまりあり。
7：褐色～暗褐色土
　ロームブロック含む。
　粘性・しまりあり。

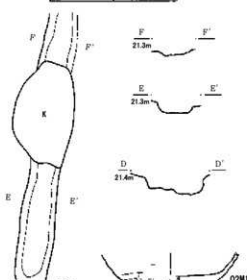




14P土層説明

1：暗褐色土　焼土含む。粘性・しまりあり。
2：淡暗褐色土　ローム粒、微量の炭化物粒含む。
　粘性・しまりあり。
3：淡褐色土　焼土、少量の炭化物含む。
　粘性・しまりあり。
4：やや暗い淡褐色土　ローム土混じる。
　粘性・しまりあり。
5：黄褐色土　ハードローム層





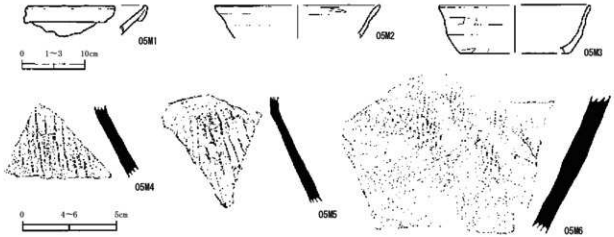
01M土層説明

1：暗褐色土　黒色土主にローム粒含む。
2：暗褐色土　1層疑似。ローム粒やや少ない。
3：暗褐色土　ローム土・黒色土混合層。
4：暗褐色土　黒色土主にローム粒少量含む。
5：褐色土　ローム主に暗褐色土少量含む。

05M土層説明

1：暗褐色土　焼土粒、炭化物粒混じる。粘性・しまりあり。
2：暗褐色土　1層よりもやや明るい色。粘性・しまりあり。
3：淡暗褐色土　ローム粒混じる。粘性・しまりあり
4：黒褐色土　焼土粒、炭化物混じる。粘性・しまりあり。
5：暗褐色土　焼土・炭化物混じる。粘性・しまりあり。
6：淡暗褐色土　ロームブロック混じる。粘性・しまりあり。
7：淡暗褐色土　焼土粒多く含む。炭化物混じる。粘性あり。
　しまりやや弱い。

第９図　奈良・平安時代遺構（２）・出土遺物（１）



第10図　奈良・平安時代出土遺物（２）

０２Ｍ・０５Ｍ遺物観察表

	器種等	部位	計測値（cm）			色　調	胎　土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
０２Ｍ１	土師器坏	胴部～底部	2.3（残存高）	—	(7.0)	暗淡褐色	長石，石英 褐色鉱物	内外面ともヨコナデ。外面底部は糸切り後ヘラナデ。
０５Ｍ１	弥生土器壺	口縁部	—	—	—	黒色	長石，石英	折り返し口縁。内外面ともヨコナデ。
０５Ｍ２	土師器坏	口縁～胴部	2.6（残存高）	(13.0)	—	淡褐色	長石，石英	外面ヘラナデ。内面ミガキ調整。
０５Ｍ３	土師器坏	口縁～底部	3.8	(12.0)	(8.6)	淡黄褐色	長石，石英	外面ヘラナデ
０５Ｍ４	須恵器甕	胴部	—	—	—	青灰色	長石，石英	外面タタキ，内面ナデ
０５Ｍ５	須恵器甕	胴部	—	—	—	緑灰色	長石，石英	外面タタキ，内面ナデ
０５Ｍ６	須恵器甕	胴部	—	—	—	青灰色	長石，石英	外面タタキ後ハケ目，内面ナデ

第４節　中・近世

中近世の遺構として，土坑２基と溝跡１条を検出した。遺構に伴うと考えられる遺物がなく，明確な時期の特定はできなかった。

１２Ｐ

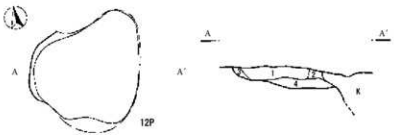
位置　調査区中央東寄り　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　0.9m×0.9m×0.16mの円形か。　**壁**　ゆるやかに立ち上がる。北側以外をカクランで切られる。　**底面**　平坦である。　**覆土**　４層に分類した。　**遺物**　遺物の出土は見られなかった。　**所見**　遺構の形状や覆土から近世の土坑と判断した。

１３Ｐ

位置　調査区中央西端　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　0.9m×0.8m×0.6m　**切り合い**　０４Ｍに切られる。　**壁**　ほぼ垂直に立ち上がる　**底面**　平坦である　**覆土**　４層に分類した。　**遺物**　遺物の出土は見られなかった。　**所見**　遺構の形状や覆土から中近世の土坑と判断した。

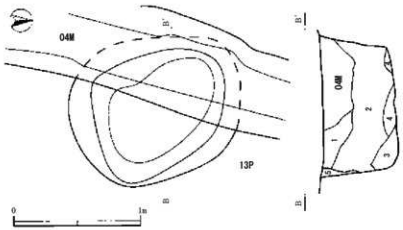
０４Ｍ

位置　調査区中央西端を南北方向に走る　**確認面**　ハードローム層　**規模・平面形**　7.0m×0.7m×0.35m　**切り合い**　１２Ｐを切る　**壁**　緩やかに立ち上がる。　**覆土**　６層に分類される。　**遺物**　奈良・平安時代の土師器・須恵器等が出土したが，流れ込みによるものと考えられる。　**所見**　遺構の切り合い関係や覆土から近世以降の溝と判断した。



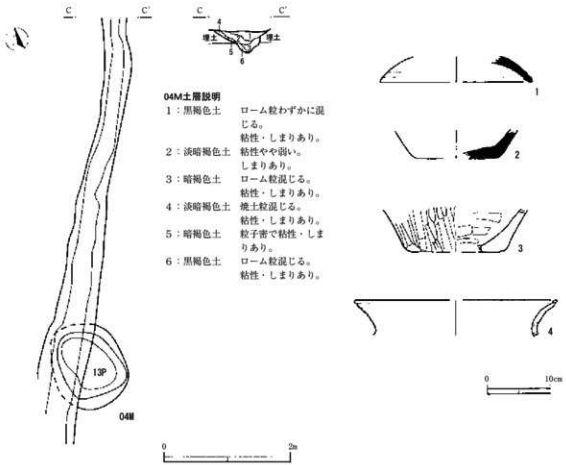
12P土層説明

1：暗褐色土	焼土粒含む。粘性・しまりあり。
2：暗淡褐色土	粘性・しまりあり。
3：淡褐色土	焼土粒混じる。粘性・しまりあり。
4：暗淡褐色土	ローム土に暗褐色土混じる。粘性・しまりあり。



13P土層説明

1：暗褐色土	炭化物、焼土粒多く含む。粘性・しまりあり。
2：黒褐色土	炭化物粒、焼土粒含む。粘性・しまりあり。
3：褐色～黒色土	ローム土、炭化物粒、焼土粒混じる。粘性あり。しまりやや弱い。
4：淡褐色土	炭化物、焼土粒混じる。粘性あり。しまりやや弱い。
5：褐色土	ソフトローム層



04M土層説明

1：黒褐色土	ローム粒わずかに混じる。粘性・しまりあり。
2：淡暗褐色土	粘性やや弱い。しまりあり。
3：暗褐色土	ローム粒混じる。粘性・しまりあり。
4：淡暗褐色土	焼土粒混じる。粘性・しまりあり。
5：暗褐色土	粒子密で粘性・しまりあり。
6：黒褐色土	ローム粒混じる。粘性・しまりあり。

第11図　中・近世遺構・出土遺物

０４M遺物観察表

	器種等	部位	計測値（cm）			色　調	胎　土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	須恵器 坏蓋	口辺部	2.0 （残存高）	（12.0）	—	緑灰色	長石	内外面とも横方向のヘラナデ
2	須恵器 坏	胴部～底部	2.2 （残存高）	—	（6.4）	灰白色	長石，石英 雲母	内外面ともにヘラナデ
3	土師器 甕	底部	3.3 （残存高）	—	（7.0）	外面：淡黄褐色 内面：黒褐色	長石，石英 雲母	内面横方向のナデ。外面縦方向のミガキ
4	土師器 甕	口縁部	2.7 （残存高）	（15.8）	—	外面：暗淡褐色 内面：淡褐色	長石，石英	内外面ともヨコナデ

第５節　遺構外出土遺物

遺構を検出する過程において，表土中及び遺構確認面上からも遺物の出土が見られた。先に掲載した縄文土器の他，主に奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土している。遺構覆土中より出土したものと接合する破片も見られたが，細片が多いため図示はしなかった。

第３章　成果と課題

今回の調査により，縄文時代の陥穴４基，弥生時代の竪穴建物跡１棟，奈良・平安時代の土坑４基，溝跡４条，中近世の土坑２基，溝跡１条を検出した。

本調査区は遺跡の南西端，南側に位置する池の台遺跡と本遊跡を分ける谷津に面した緩斜面上に立地する。遺構確認面が谷を埋める深い埋土下で，カクランが広範囲かつ深い場所まで及んでいることから，削平により失われている遺構もあると考えられる。その中で，谷に沿って陥穴が所在する状況は，白幡前遺跡ではまだ知見の少ない縄文時代の様子を現す良好な資料である。また，奈良・平安時代には台地の際部分を溝により区画する状況など，これまでの成果と併せて，奈良・平安時代の土地の利用の仕方を考える上で貴重な資料となってくるであろう。

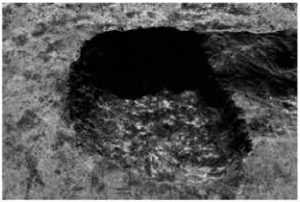
参考文献

八千代市史編さん委員会（1978年）『八千代市の歴史』
㈶千葉県文化財センター（1991年）『八千代市白幡前遺跡』
㈶千葉県文化財センター（1994年）『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡』
八千代市教育委員会（2007年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成14年度』
八千代市教育委員会（2009年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成20年度』
八千代市教育委員会（2009年）『千葉県八千代市白幡前遺跡ｃ地点』
八千代市教育委員会（2015年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成26年度』
八千代市教育委員会（2016年）『千葉県八千代市白幡前遺跡ｅ地点』
八千代市教育委員会（2016年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成27年度』
八千代市教育委員会（2016年）『千葉県八千代市白幡前遺跡ｄ地点』
八千代市教育委員会（2017年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成28年度』
八千代市教育委員会（2020年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　令和元年度』
八千代市教育委員会（2020年）『千葉県八千代市白幡前遺跡ｈ地点』

調査前全景

Ⅰ区全景

基本層序（A-A'）



０１Ｐ

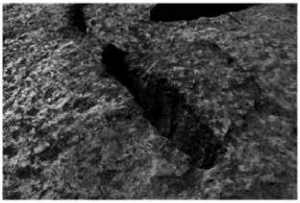
０１Ｍ～０３Ｍ・０２Ｐ

０１Ｍ土層断面

Ⅱ区全景

基本層序（B-B'）

図版２



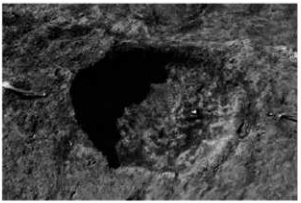
０３Ｐ

０４Ｐ

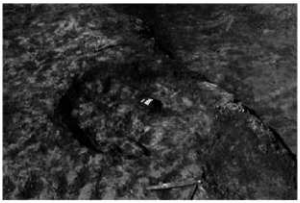
０５Ｐ

０４Ｐ土層断面

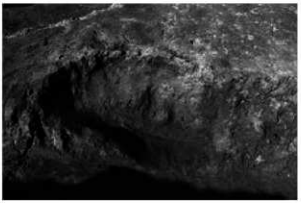
０７Ｐ



０６Ｐ



０８Ｐ



０９Ｐ

Ⅲ区全景

基本層序（C-C'）

０１Ｄ

０５Ｍ

１１Ｐ

０５Ｍ土層断面

０４Ｍ・１３Ｐ

１３Ｐ土層断面

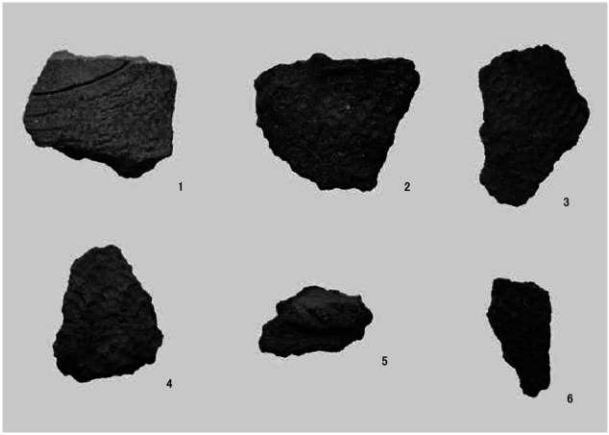
図版４

Ⅳ区全景

０５Ｍ

１４Ｐ

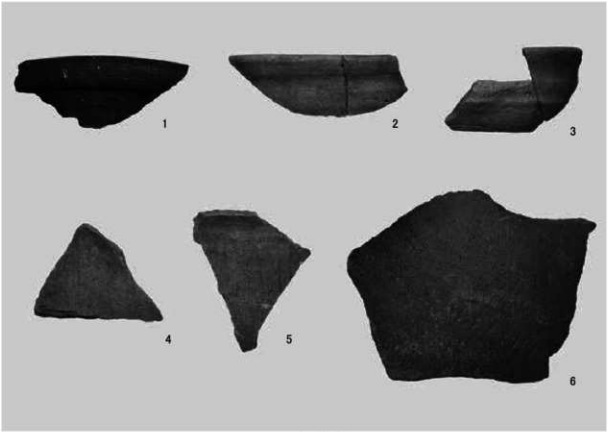
１２Ｐ



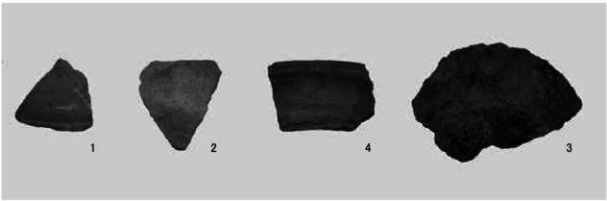
縄文時代出土遺物

０１Ｄ出土遺物

０２Ｍ出土遺物



０５Ｍ出土遺物



０４Ｍ出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばけんやちよし　しらはたまえいせきあいちてん
書　　名	千葉県八千代市　白幡前遺跡ⅰ地点
副 書 名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	宮下聡史
編集機関	八千代市教育委員会
所 在 地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138番地2　TEL 047(483)1151代表
発行年月日	令和５年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
しらはたまえいせき 白幡前遺跡	ちばけんやちよしあいだいけ 千葉県八千代市愛田字池ノ台2243番２他	12221	185	35度 43分 28秒	140度 6分 19秒	第１次 2021.9.1～ 2021.10.28 第２次 2022.5.27～ 2022.7.29	第１次 320㎡ 第２次 296.32㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
白幡前遺跡	包蔵地 集落跡	旧石器，弥生，古墳，奈良・平安	縄文時代陥穴４基，弥生時代竪穴建物跡１棟，奈良・平安時代土坑７基，溝跡４条，中近世土坑２基，溝跡１条	縄文土器，奈良・平安時代土師器・須恵器	

要　　約	調査において，縄文時代の陥穴４基，弥生時代の竪穴建物跡１棟，奈良・平安時代の土坑７基，溝跡４条，中・近世の土坑２基，溝跡１条等を検出した。南側の谷へ向かって下がる緩斜面上に位置し，台地縁辺部における土地利用の状況が窺える。

千葉県八千代市　白幡前遺跡ⅰ地点

―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

発 行 日　令和５年３月31日

編　　集　八千代市教育委員会　文化・スポーツ課
〒276-0045　八千代市大和田138-2
TEL 047-481-0304

発　　行　株式会社 Assure Dream

印　　刷　金子印刷企画
千葉県八千代市萱田410-1